

令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

令和 4年 月 日

協議会名: 和光市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域公共交通計画策定事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③計画等の策定等に向けた方針
<p>【事業内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民意向把握調査(市民インタビュー、市民アンケート、公共交通利用者アンケート、民生委員アンケート、高校生アンケート、関係者ヒアリング) ・和光市地域公共交通計画(案)のとりまとめ ・和光市地域公共交通会議の開催 ・和光市公共交通研究会の開催 ・和光市地域公共交通事業者部会の開催 <p>【結果概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民や路線バス利用者、市内循環バス利用者、タクシー利用者、民生委員及び高校生へのアンケートや各種ヒアリングにより市内公共交通についての現状・課題を整理した。 ・市関係課へのヒアリングにより上位計画及び関連計画について整理するとともに、それらとの整合性も考慮し、基本理念や基本方針を定めた。 ・和光市公共交通研究会の開催により、市内循環バスの抱える課題や改善策について利用者より意見や提案を頂いた。 ・和光市地域公共交通事業者部会の開催により、市内公共交通事業者より、市内の運行について課題の整理や市への要望等を頂いた。また、併せて、各事業者へ個々のヒアリングを行い、現状課題等について意見を伺った。 ・各調査事項等の結果を踏まえ、和光市地域公共交通会議へ諮るための計画素案を作成した。 ・今後、パブリックコメントによる意見募集を踏まえ、「和光市地域公共交通計画」の取りまとめを行う。 	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された(される見込み)</p>	<p>当該計画策定にあたっては、上位計画である和光市総合振興計画に基づくとともに、和光市都市計画マスタープラン等の関連計画との連携・整合を考慮し、以下のとおり計画の理念や方針、目標を策定した。</p> <p>【基本理念】 「ひと、まち、にぎわいをつなぐ地域公共交通～全ての市民の移動の自由を目指して～」</p> <p>【基本方針】 「市内の移動しやすさ向上」「まちづくりと連携した持続可能な地域公共交通」「多様な移動による地域活性化」</p> <p>【目標】 「利便性の高い地域公共交通軸の維持・充実」「拠点までの市内短距離交通の充実」「狭隘道路や坂道等による公共交通の不便性の解消」「誰もが迷わず分かりやすい利用環境・情報提供」「交通サービスを提供するための基盤整備及び体制構築」「多様な交通サービスの有機的な連携」</p> <p>上記をもとに、市民や公共交通利用者、事業者等へのアンケートやヒアリング等を行い、「和光市の地域公共交通を取り巻く現状と課題」をまとめ、課題解決の為の施策及び事業を検討し、計画案を策定した。</p> <p>現在実施しているパブリックコメント終了後、和光市地域公共交通会議における承認後、「和光市地域公共交通計画」として公表する。</p>

令和3年度 和光市地域公共交通会議 (埼玉県和光市) (地域公共交通計画策定事業)

公共交通の概況・地域の特徴

和光市における公共交通としては市内唯一の鉄道駅である和光市駅にて、2社3路線(東武東上線、東京メトロ有楽町線・副都心線)が運行しており、首都圏の主要な地域(池袋、新宿、有楽町、渋谷、横浜など)へのアクセス利便性は高いと言える。また、バス路線については和光市駅を中心に成増駅や大泉学園駅、西高島平駅等に3事業者が運行している。

また、路線バスの運行が困難な地域(利用需要や狭隘道路)に対しては、和光市内循環バスが3路線で運行している。これにより、市内の広範な地域において、いわゆる「交通空白地域」は比較的少なくなっているが、市内循環バスの運行本数が少ないことにより、必ずしも利便性の高い運行とはなっていない。また、高低差が大きい地形という特性により、付近のバス停までの移動が困難であるという市民も多く存在する。

タクシーについては市内に事業者が1社あるが、乗務員不足や市内の慢性的渋滞もあり効率的な運行が困難な状況となっている。



地域の抱える問題点・計画策定調査の必要性

市内循環バスは広範なエリアをカバーしている一方、長大な運行距離や少ない運行本数が課題となっている。また、狭隘道路が多く、バス車両が進入できないことにより交通空白・不便地域となるエリアが発生している。加えて、当市の地形は高低差が大きく、坂道が多いエリアでは付近に停留所があっても、そこまでの移動が困難な事例が発生しており、日常の移動に不便を感じる市民も多い。

そのため、市内循環バスの効率的かつ利便性の高い運行と、狭隘道路等、バスの運行が困難なエリアの課題解決のため、市内の公共交通に係る現状や課題の抽出、市民が抱く課題や改善要望の整理を行うとともに、和光市に見合った公共交通網を実現するため、地域公共交通計画を策定する必要がある。

面積	11.04 km ²
人口 (R3.4.1時点)	83,781 人
15歳未満	11,327人
65歳以上	15,049 人
高齢化率	17.96 %
世帯数	42,265 世帯

調査の内容

- ①地域公共交通現状把握
(市内循環バス利用者アンケート、路線バス利用者アンケート、タクシー利用者アンケート)
- ②住民アンケート調査・グループヒアリング
(市民アンケート、民生委員アンケート、高校生アンケート、子育て世代ヒアリング・交通空白地域住民ヒアリング)
- ③関係者ヒアリング(公共交通事業者、市関係課)
- ④地域公共交通会議及び関係会議の開催(予定含む)
(地域公共交通会議5回、地域公共交通事業者部会3回、公共交通研究会5回) など

協議会開催状況

- 令和3年度の開催状況(予定含む)
- ・第1回(5月11日)
実態・ニーズ調査の実施について
 - ・第2回(8月18日)
和光市地域公共交通計画策定に係る方針について
 - ・第3回(11月29日)
和光市地域公共交通計画(案)について
 - ・第4回(令和4年1月14日)
事業評価の実施について(書面開催)
 - ・第5回(令和4年2月開催予定)
和光市地域公共交通計画の策定について

調査事業の結果概要

【ニーズ調査概要】

①アンケート

・市民アンケート(無作為・3,000名を対象) ・民生委員アンケート ・路線バス利用者アンケート ・市内循環バス利用者アンケート ・タクシー利用者アンケート ・市内高校生アンケート

②インタビュー・ヒアリング

・公共交通不便地域自治会 ・子育て世代 ・市内高校 ・交通事業者 ・庁内関係課 有識者

上記ニーズ調査の実施により、「和光市の地域公共交通を取り巻く現状・課題」について以下のとおりまとめた。

課題① 駅・バス停までの距離・坂による不便性や、市内のサービス水準・料金のばらつき等への対応が必要

課題② 将来的に大きく変化する人口分布や高齢化状況への対応が必要

課題③ 駅周辺や新たな拠点整備に合わせた交通環境の改善やネットワーク見直しが必要

課題④ 拠点間を跨ぐ長大路線や利用の少ない路線・区間の見直しが必要

課題⑤ 市内循環バスの利便性・効率性の改善が必要

計画の策定方針(基本方針案、予定する主要事業等)

基本理念 「ひと、まち、にぎわいをつなぐ地域公共交通 ～全ての市民の移動の自由を目指して～」

基本方針 「市内の移動しやすさ向上」「まちづくりと連携した持続可能な地域公共交通」「多様な移動による地域活性化」

施策1: 路線バス等の維持・充実

施策2: 市内循環バスの再編・見直し

施策3: 新たな移動手段の導入

施策4: 総合的な情報提供・利用案内

施策5: 交通空間・運行環境の整備

施策6: 市民・地域・民間企業等と共に考える場づくり

施策7: 多様な交通サービス等との連携

施策8: 運賃施策

アピールポイント

・市民を対象とした無作為調査だけではなく、民生委員や市内の高校へ通う学生を対象としたアンケートも実施した。

・路線バスや市内循環バスの停留所が遠く、交通利便性が低い地域の自治会を対象にインタビュー調査を行った。また、乳幼児の母親を対象としたヒアリングを実施した。

・路線バスや市内循環バスの運行改善や見直しに係る事項だけではなく、案内や誘導サイン等による分かりやすい利用環境やオープンデータ化や情報提供ツール作成等の情報発信についても検討を要する事項として記載した。

・運賃施策についても、それぞれの公共交通の連携による利便性向上を目標とした。

次年度以降の取組概要

・市内循環バスの運行計画改正に向けた調査検討

・市内循環バスの運行経路から外れる地域や移動困難地域を対象とした新たな移動手段の検討

・市内循環バスのオープンデータ化や情報提供ツールの作成、拠点での案内強化やMaasアプリ等、情報提供や利用案内の検討

・路線バス及び市内循環バスの運賃施策の検討

・交通空間や運行環境の整備に向けた検討

・モビリティマネジメントの検討・実施

・和光市地域公共交通会議、和光市地域公共交通事業者部会、和光市公共交通研究会の継続的な実施 など

